

ぐ どう

弘道

発行 日蓮宗埼玉県檀信徒協議会
〒355-0066 東松山市神戸1121(神戸妙昌寺内)
TEL 0493-34-3042
FAX 0493-34-3499

伝えて下さい、
三つの心を

「伝えて下さい、み仏を敬う心を」

「伝えて下さい、ご先祖を大切にすることを」

「伝えて下さい、お寺参りの心を」

六月十六日、平成十八年度日蓮宗埼玉県寺檀協議会が鳩ヶ谷市の常住寺において開催され、県内各地より、教師檀信徒あわせて約百名が参加されました。

開会の式の中で関根所長は「悪い事ばかりが起き、少子高齢化が進んでいる今、大聖人の教えを汲む一信徒として、次期宗門運動である立正安国・お題目結縁運動にむけてどういう運動にするべきか、またいかにして信仰の継承をはかるか模索している最中です。ますますの皆様のお力添えを頂きたい。」とご挨拶なされました。

総会では吉田卓治会長(常薫寺)が議長に選出され、全国檀信徒協議会総会の報告や平成十七年度の事業、決算報告が行われ承認されました。任期満了に伴う役員改選では岸昭夫副会長(神戸妙昌寺)が新会長に選出され、同時に新しい役員が選任されました。長きにわたり会長の重職を務められた吉田前会長、同じく勇退なされる理事の小峰廣太郎氏(眞淨寺)、庶務会計の長谷川幸市氏(妙福寺)、会長事務主任甘楽勝純上人の各氏に対し、関根所長より感謝の言葉と記念



品が贈られました。吉田氏は退任の挨拶と一緒に勇退する役員方に感謝を述べ、在任中の思い出などを話され、「新しい宗門運動に新しい役員で臨むことになるので、皆さんの一層のご協力をお願い致します。」と語った。退任する吉田前会長は顧問として引き続き檀信徒協議会の運営に携わることとなりました。

その後、岸新会長を中心とした新役員による平成十八年度の事業計画、予算案が報告され承認、また信仰の継承に向けての取り組みの一環として、各寺院での設立が期待される檀信徒青年会について、既に結成し活動なされている川口実相寺の松永慈弘上人より、その活動内容が紹介されました。

講演では、東京常仙院住職、野坂法雄上人による「立正安国・お題目結縁運動について」南無妙法蓮華経の意(こころ)と題したご講話を拝聴いたしました。

野坂上人の修行時代の話を織り交ぜた法話に参加者は熱心に聞き入っておられました。

最後に、稚山宗務副長導師のもと唱題行が行われ、会場寺院の住職である濱田文護上人のご挨拶を頂いた。むすびの挨拶に立った岸昭夫新会長は、会員にさらなる協力を呼びかけ閉会となりました。

長照山常住寺さまについて
慶長年間に開創されました。
日蓮聖人坐像(木造)は鳩ヶ谷市指定有形文化財です。

就任にあたって

会長 岸 昭夫



卓越した指導力と深い信仰心を持たれてご活躍なされました吉田卓治前会長の後任としてその職に就くことになりました。職責の重要性を認識し、前会長の意思を尊重いたし当会の更なる充実と発展に精一杯努めて参りたく存じます。

さて、ややもすれば「信仰」とは自分自身の内面だけの行いという認識をされがちであります。日蓮大聖人のご生涯あるいは各ご寺院の歴史から明らかでありますように、縦の深まりと横のつながりがあつてこそ伝道宗団「日蓮宗」の存在意義があるものと私は確信いたしております。

昨年より宗門で提唱された「立正安国・お題目結縁運動」こそ、自他・内外にわたり浸透

し展開されるべき一大信仰運動でありましょう。

新宗門運動を契機に大聖人さまが『立正安国論』にこめられましたところを、現代の私どもがどのように受けとめ、いかに実践して参るかを各菩提寺のお上人さまや檀信徒が学びあうと共に、管内で信行を深めてゆければ素晴らしい取り組みになると考えます。

そして、私自身も含め会員各聖各位のご精進によつて、未だに仏縁のなかつた方々へも「お題目結縁」の輪が広がってゆければとお願いいたしております。

日蓮大聖人の足跡が多く伝わる埼玉県の檀信徒協議会の拡充に向けて皆さま方の積極的なご参加をお願い申し上げます。

日蓮宗は山梨県の「身延山久遠寺」を信仰の中心である祖山と仰ぎ、行政面の中心を東京都の「日蓮宗宗務院」において教主釈尊・法華経・日蓮聖人の教えを現代に生かす努力をはらっています。

日蓮宗全国檀信徒協議会発行「檀信徒のこころえ」より

会長退任のことば

顧問 吉田 卓治

私は去る六月十六日開催の総会で岸昭夫氏に新会長をお受け頂きました。

思えば初代埼玉県檀信徒協議会会長であった伊藤長次郎前会長の病氣退任後の一年とその後の二期四年を未熟でありました。が会長を無事勤めることが出来ました。

ひとえに宗務所長関根教沅僧正、役職のお上人さまがた、副会長時代からご指導いただいた妙仙寺の外岡信昭上人、増田二様、その後は菩提寺の甘楽勝純上人、庶務会計の田所進次氏、石古宗彦氏のお二方のひとかたならぬご教導とお力添えを頂いたおかげと心から感謝致しております。

会長職退任にあたり、さまざまなことご走馬燈のように心の中をよぎっております。

当会は平成八年、寺檀協議会から檀信徒協議会に改組致しましたが、その目標は①宗務所・各寺院・檀信徒が一体となつて信行活動の促進を図り、あわせて②各寺院の連絡を密にし宗務行政の円滑な推進に協力する

ことでした。

此の目標実現の一環として「弘道」の発行が企画され、平成九年二月に創刊、紙面の充実を図り二十五号を数えました。会長就任後、お題目総弘通運動の結願が目前でございます。清澄寺の慶讃大会にお招き頂き、埼玉・関東教区両大会ではかつてない大法要に皆様と一緒に参加出来ました事はこの上ない感激と喜びでありました。

万言を重ねても意を尽くすことは出来ませんが、この五年間、皆様から温かいお励ましを頂いた事は本当に有り難く感謝申し上げます。次第であります。

本会の益々のご隆昌とご発展を心よりご祈念申し上げ、退任のご挨拶といたします。



仙教質問箱

お盆の行事や支度（したく）は地域によって何か違いがあるのでしょうか。

一般的に私たちがお盆と呼んでいる期間は、七月または八月の十三日から十六日までの四日間をさしますが、地域によってその日程や盆棚の飾り付け方など多少異なります。

埼玉県内でも七月の十日おくれのお盆として、七月二十三日から二十六日までにお盆を行うところもありますし、旧暦に習い八月二十五日から二十八日頃になさる地域もあります。

さて、お盆の入りの日には「迎え火」を焚いて先祖の精霊（しよりよう）をお招きすることから「精霊迎え」「迎え盆」と称します。地域独自の習慣もありますが、お墓の前でロソクに火を灯したり、玄関先でオガラを炊くところが多く見られます。長崎県ではお墓で花火を使ってご先祖さまをお迎えする習慣もあり、とても興味深いですね。

ただ、アパートやマンションにお住まいの世帯では、盆提灯

に電気で明かりを灯したり、お飾りした盆棚やお仏壇のロソクなどに火を灯すだけのご家庭も最近が多いようです。



お盆の期間中には、僧侶による棚経を行うところも多くあります。お上人にお経を上げて頂くだけでなく、家族がそろってお題目をお唱えしてご先祖さまのご供養を行うことが大事です。

この時に僧侶に飲食（おんじき）のご供養も行われています。十六日の夕方には「送り火」を焚いて、ご先祖さまにお帰りを頂くことから「送り盆」とも呼ばれています。夏の京都の夜空を美しく彩る大文字（だいもんじ）焼きや、長野県や静岡県で

の柱松（はしらまつ）、投げ松明（たいまつ）といった地域対抗で火をつけて競争をする火まつり行事を行うところもあります。

また、さだまさしさん（長崎県出身）の歌で有名な「精霊流し」が行われるのも「送り盆」にする儀式です。「精霊船」や「灯ろう流し」では、各家のお盆飾りをまとめて小さな船にのせて海や川に流しましたが、最近ではさまざまな条例により制約を受ける地区もあるようです。

ところで最近では「藪（やぶ）入り」という言葉もあまり耳にいたしません。江戸時代には奉公人が正月とお盆の十六日前後に主家から休暇をもらって親もとなどに帰りました。ちなみにお盆の休暇は「後の藪入り」とも申しました。また、この時期は、他家に嫁いだ女性が実家に戻ることでできる時季でもありました。

日本ではもともと一年を二期にわけており、お盆は正月とともに折り目として先祖の霊を迎え繁栄を願ったことに由来します。つまりお盆は一年の二期目のはじまりにあたり、一家がそろうことは、何よりもめでたいことでありました。遠方で暮ら

す子供がお盆に親のところに帰り食事をともにして親孝行をし、一族の健康を祝うお盆のことを「吉事盆」（きちじぼん）とも呼ばれていました。

しかしながら、最近では夏休みの時期も人それぞれの方です。お盆に実家に帰れないという人も多いとのこと。そこで、お部屋の中に盆棚に見立てたコーナーを作ってみてはいかがでしょうか。

私たちが現在あるのも、すべてご先祖さま、仏さまのお導きあつてのことです。先祖のいない人は一人もいません。お盆には、家族みんなで手を合わせお題目をお唱えいたしましょう。この美しい日本の伝統と心を子や孫に伝えるのは、先祖より命を頂き今を生きる私たちの大切な役目です。



大聖人 彩の国紀行

第四回

神戸妙昌寺

日蓮大聖人、御年五十歳の年は、まことに激動の年でありました。

日蓮さまが文永八年（一二二七）九月十日に鎌倉幕府待所の所司であった平頼綱に逮捕、尋問されたのははじまりとして、同月十二日には龍口法難。門弟は投獄されるなど教団ぜんたいをゆるがす年であったのでした。

『寺泊御書』とよばれる日蓮さまのお手紙には「十月十日、相模の国の依智の郷を出立して武蔵の国久目河の宿に着き、十二日を経て越後の国、寺泊の港に到着しました。（佐渡へは二十八日着）道中のことは心も及ばず、また筆で記すこともできません」とつづられておられます。神奈川県から埼玉・群馬・長野県を経て新潟に至る、苦渋に満ちた流罪の道中であったものとおしのびすることができるとあります。

さて、今日に残る文献では十月十三日に児玉領主、児玉八郎左衛門時國公の館にお泊りにな

ったことが記されておりますが、この前に鎌倉街道ぞいの東松山市内をお通りになったと伝えられております。



神戸妙昌寺は山号を青鳥山（おおどりさん）と称し、現住所の神戸（こうど）ではなく、元々は青島にあったことからこの山号が名付けられております。

『新篇武蔵風土記稿』や妙昌寺の檀家である岸邦雄家に残る古文書によると、

妙昌寺の建立は弘安四（一二八一）年なり。開山は日仙聖人と申され六老僧日頂聖人の

お弟子です。

一間四面の辻堂で七日間の説法をなされたところ、当地の城主斧澤入道修理太夫は青島の土地、四町余を寺地として寄進され、弘安四年に寺を建立し青島山妙昌寺としました。祖師堂は寛文六（一六六六）年に建立されたものですが、ご奉安する日蓮聖人像は中老僧日法上人の作にして、日蓮さま御自らご開眼なされた尊いお像です。（取意）

と記されております。この祖師像は東松山市の文化財の指定を受けており、この他にも日蓮大聖人六十五回忌の板石塔婆をはじめ二十基近く残る板石塔婆群や瓦塔など埼玉県・東松山市の文化財を多く格護しております。



市文化財「瓦塔」

希望者には拝観と由来を説明する文化財見学会を開催しておりますので皆さまのご来山をお待ちいたしております。

編集後記

▽会長交代にともない事務局も栗橋の常薫寺さまから東松山市神戸妙昌寺へ引き継ぎました。この第二十六号も常薫寺の甘楽上人のご協力とご指導を頂き作成・発刊することができました。

▽北関東東教区檀信徒研修道場が九月四日（月）～五日（火）一泊二日の日程で、厄除祖師で有名な東京都杉並区の本山堀之内妙法寺で開催されます。またとない尊いご修行体験のチャンスです。菩提寺さまにご相談下さい。

▽『日蓮宗新聞』は年間三六〇〇円にて毎月三回発行されます。全世界に広がる日蓮宗のお寺や檀信徒の活動、信仰体験、教学をはじめ、幅広い内容が掲載されており、読む信仰活動と申せます。購読をお勧めいたします。

▽次回、第二十七号「大聖人・彩の国紀行」第五回は児玉の玉蓮寺さまを巡ります。埼玉における大聖人の旅路の最終地点となります。くしくも、護法団参で佐渡へ参りますこと、とても尊いお導きを感じます。